



保健だより

7月号

看護師
長谷川 有里子
金丸 知世

夏風邪について

大人の夏かぜは症状が穏やかな場合が多いのですが、子どもの場合は症状が重くなることがあります。プールを介して感染することが多い「プール熱」や、口内炎ができる「ヘルパンギーナ」、手・足・口に水ほうができる「手足口病」や、目の充血・目やに・涙ができる「流行性角結膜炎」などは、子どもがかかりやすいウイルス性の夏かぜの代表格で、症状の変化に注意が必要です。高熱が出て嘔吐などが見られる時は、医療機関を受診しましょう。6月初めより、夏風邪（プール熱・ヘルパンギーナ・手足口病の3週連続の増加が確認されています。予防法は、冬場と変わりません。部屋の乾燥を防ぎ、手洗いをしっかりと行い、バランスの良い食事をとて、規則正しい生活を心がけましょう。また、体調が戻ったからと言って、油断せずに、しっかりと体をやすめることも大切です。

☆プール熱（咽頭角結膜熱）は「主要症状が消退した後2日を経過するまで登園停止」となります。

また、登園の際には、医師に記入いただく登園許可意見書が必要となります。

ヘルパンギーナや手足口病は登園許可に必要な提出書類はないものの

注意が必要な病気として位置づけられています。

3大夏かぜの症状



7月からプール活動が開始されます。

今年度も環境省熱中症予防情報サイトや黒球計を利用し、保健コーナーの掲示を通して、暑さ指数等の情報をお知らせていきたいと考えています。

保育園では環境省熱中症予防情報サイトの「WBGT暑さ指数が厳重警戒を超えたなら、屋外での活動を基本的に中止する」ことで安全な保育に努めています。また、室内においても、水分補給や休息、室内の適切な温度管理に努めています。

発熱や嘔吐・下痢等の脱水症状が強く疑われるときには、経口補水液も飲用することができます。経口補水液の飲用を希望されないご家庭は担任・看護師までお声掛けください。

その際は従来通り、麦茶・白湯等で対応させていただきます。

水イボについては、プールの水を介する感染の恐れはないと言われています。感染の恐れのない状態（水イボがジュクジュクしていない、傷になっていない等）であれば、治療の必要はありません。

感染症情報

突発性発疹	1歳児 1名
	0歳児 3名
手足口病	1歳児 14名
	2歳児 1名
ヘルパンギーナ	1歳児 2名
伝染性膿痂疹（とびひ）	1歳児 1名
水痘（水ぼうそう）	1歳児 1名

※6月は乳児クラスを中心に、下痢・嘔吐・発熱で体調を崩す園児、手足口病の園児も多数いました。引き続き、園内の消毒や換気をこまめにおこない、感染症の拡大防止につなげていきたいと思います。今後も園内の感染症状況を保健の掲示やおたよりを通して、お伝えしていきます。

災害共済給付（スポーツ振興センター）に関する同意書のご提出ありがとうございました。

提出がまだの方は、担任までお願ひいたします。